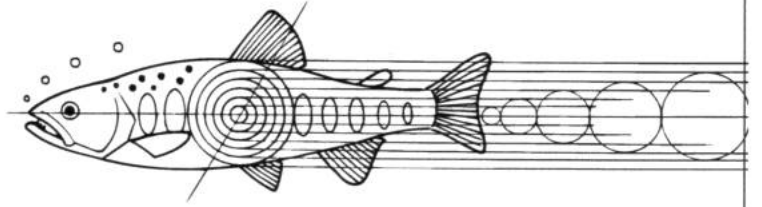


news

長良川市民学習会ニュース



長良川に徳山ダムの水はいらない。

特集：市民が参加した COP10 生物多様性交流フェア

No.10

2010年12月18日

表紙・目次(写真/長良川から金華山を望む)・・・P.1

はじめに・長良川市民学習会の3年と今後・・・

・・・・・・・P.2～4

市民が参加したCOP10・・・・・・・・・・・・・・P.5～8

今、長良川は・・・・・・・・・・・・・・P.9～11

校歌に歌われた長良川、事務局より・・・・・・・・P.12

はじめに 市民学習会結成から3年

長良川市民学習会代表 粕谷志郎

一気に駆け抜けた3年でした。参加いただいた皆さんの力が結集出来た賜物と感謝しています。「徳山ダムの水が長良川へ!」「何故?」でスタートした学習会でした。文字通り、分からないので聞く、学習する、の連続でした。今もって「何故?」に確たる道理で説明できる人はいないでしょう。徳山ダムの水をどこかに引かなきゃならない。河口堰も「使いたい」し、以上の道理は無いようです。冷たく富栄養化した水を長良川に流したら、環境破壊は目に見えています。多額の血税を使って環境を破壊する。こんな政治はやめて欲しいものです。河村名古屋市長の誕生、政権交代。一気に時代が進みました。今まで貯まった芥を流すよう。しかし、揺れ戻しは何にでもあります。ちょうど、今がそうだと思います。この学習会が健在であれば、導水路を阻止でき、長良川河口堰は開くと確信しています。河口堰が開いて損をする人は誰もいないのですから。こんな明々白々な真実を皆さんと共有できる日は、そう遠くないと思い始めています。

長良川市民学習会の3年と今後

長良川市民学習会 事務局長 武藤 仁

長良川市民学習会が結成されて以来の活動ならびに情勢・行政の動きを次ページの表に整理しました。3年前、市民に何の説明もなく進められようとしていた「導水路計画」に、「導水路って何なの? 必要なの?」の疑問の一点で集まった私たちでした。学習し行動する中で情勢を切り開いていくことができました。「鶴飼場の上流に放流するのをやめて支流に流す提案」や「長良川に流すのは渇水時だけにして常時流す計画は止める」は、市民学習会の活動で市民の中に事業計画の問題が明らかになるのを恐れた国の動揺の表れです。

そんな流れの延長で、名古屋市長の導水路撤退表明や新政権の導水路凍結決定は、導水路事業中止に大きく近づくものと期待されました。しかし、建設にしがみつ়勢力の猛反発が始まりました。新政権は動揺。「コンクリートから人間へ」の看板を降ろし、「凍結」の名のもとで導水路事業費の支出を続けています。私たちは新政権の「揺れ」に翻弄されることなく、国、自治体に対し「導水路事業の即時中止」の要求を堅持し、行動を繰り返しています。

今年2010年は、岐阜県で「第30回全国豊かな海づくり大会ぎふ長良川大会」が、名古屋市でCOP10（第10回生物多様性条約締約国会議）が開催された年でした。長良川を愛しそこに生きる生き物の学習を積み重ねてきた私たち市民学習会にとって、大切な年となりました。

長良川を最も傷つけている長良川河口堰のゲート開放を全国に、世界にアピールするために、私たちは長良川流域と伊勢湾で活動する9団体で市民による「豊かな海づくり大会」実行委員会を結成し行動しました。新聞各社の長良川や河口堰の連続特集とも相まって、「河口堰ゲート開放」は大きな世論となりました。壊滅的な漁獲量の落ち込みで長良川の漁協も声を上げるようになりました。岐阜市長は記者会見で「ゲート開放、有効」を初めて表明しました。

私たちは繰り返し、国に対しゲートの開放を求める要請行動と公開質問状の提出を行っていますが、国は逃げています。しかし、今月の「諫早水門開門」の再びの勝利判決と「上告断念」の閣議決定で、河口堰閉鎖に固執する国交省はさらに孤立し、逃げ場は無くなるでしょう。

今、長良川では、新政権の「ダム見直し」方針で、内ヶ谷ダム建設問題が急浮上してきました（P9『寝た子「内ヶ谷治水ダム」が起き上った?!』をご覧ください）。また、今川という派川が涸れるという、驚くようなことも起こっています（P11『涸れた今川』をご覧ください）。長良川をめぐる情勢の波は高まっています。結成して3年の市民学習会ですが30年間を凝縮するような激動を経験し、今、その真っ只中にいます。長良川は長い歴史の中で大きく変貌してきました。そこには水とうまく付き合った知恵や、支配者との戦いの歴史があります。

私たち長良川市民学習会は、これまでの3年間の活動に確信を持つとともに、今後さらに謙虚に先人の営み・歴史を学び、地域の活動に学び行動するそんな市民運動に発展させていきたいと思ひます。

長良川市民学習会の3年

		長良川市民学習会の活動	情勢・行政の動きなど
2007年 (H19)	8月		22日 「第7回徳山ダムに係る導水路検討会」において、長良川にも導水する「上流分割案」で三県一市が合意。
	12月	17日 第1回実行委員会(準備会) 26日 岐阜市会各会派に申し入れ	
2008年 (H20)	1月	14日 市民河川調査(水袋流し・千鳥橋)	18日 木曾川水系河川整備計画公聴会(岐阜市)
		16日 朝日新聞「意見広告」掲載	
		16日 「長良川に徳山ダムの水はいらない」市民学習会(村上、新村、近藤、富樫)	
		18日 岐阜市交渉	
	2月	12日 名古屋市議・愛知県議団に要請行動	6日 大須賀県議、議会で取り上げる。
		19日 岐阜県交渉	7日 太田県議、議会で取り上げる。
		24日 導水路計画現地調査	
	3月	23日 「長良川に徳山ダムの水はいらない」市民シンポジウム(山内、富樫、津田)	
		23日 岐阜市議会議員アンケート結果公表	
	4月	22日 国交省交渉(木曾川上流事務所)	24日 第4回導水路環境検討会(初めて公開)で常時放流を長良川支流から放流する提案が出る。
		29日 長良川中流域エクスカージョン	
	5月	10日 鶴飼開きにあたりアピール発表	5日 徳山ダム試験放流完了
		19日 国交省交渉(木曾川上流事務所)	
	6月	3日 「長良川に徳山ダムの水はいらない」緊急市民学習会(向井)	1日 木曾三川ふれあいセミナー(岐阜市役所)
		4日 岐阜市議会へ請願書提出	2日 「木曾川水系・水資源開発基本計画」変更閣議決定
		29日 第2回ふれあいセミナー(岐阜市民会館)収集つかず。	
	7月	12日 アピール行動(長良川下りとパーベキュー)	14日 第5回導水路環境検討会
		中旬 岐阜県議会請願署名運動開始	
28日 岐阜県交渉			
8月	25日 署名・宣伝行動(JR岐阜駅)	7日 民主党議員団「導水路」現地視察・住民団体懇談会	
		11日 水機構の導水路実施計画に岐阜県回答	
9月		28日 国交省HPでふれあいセミナーに出た質問に回答掲載	
	2日 岐阜県交渉	4日 水機構、導水路事業を国交省より承継	
	22日 国交省交渉(木曾川上流事務所) 24日 岐阜県議会請願署名提出(23,489筆)		
10月	15日 「長良川に徳山ダムの水はいらない」市民シンポ(古屋、村上、向井、庄司)	27日 第1回導水路事業監理検討会開催	
12月	22日 岐阜県緊急要請行動		

2009年 (H21)	1月	13日	国交省中部地整交渉		
		31日	朝日新聞「意見広告」掲載		
	2月	4日	月例水質調査開始(古津、西平)		
		7日	市民学習会「長良川への想い」 (吉村、蒲、亀崎)	10日	第6回導水路環境検討会
	3月			17日	「導水路はいらない!愛知の会」愛知県に要請行動。
				1日	「導水路はいらない!愛知の会」発足総会。
	4月			30日	「愛知の会」愛知県に住民監査請求書提出。
		14日	市民学習会「長良川への想い」パートⅡ (吉村、山内、向井、古屋)	1日	導水路建設所が、岐阜市宇佐南に移転。業務開始。
	5月	15日	河村市長「撤退」を歓迎する文書発表	26日	河村たかし氏名古屋市長に当選
			国交省に公開質問状提出	7日	事業監理検討会で、「長良川には濁水時だけ放流」検討で三県一市合意
	6月			15日	名古屋市長「導水路撤退」表明 第7回導水路環境検討会
		6日	トーク&コンサート「このままでこのままで流れよ長良川」 (笠木透&雑花塾、富樫、新村、高橋、平井)	11日	住民訴訟提出デモ行進(愛知県庁~名古屋地裁)
	7月			20日	導水路住民訴訟スタート集会
		29日	「徳山ダム導水路はいらない」市民学習会 (近藤)	26日	第8回導水路環境検討会
	8月			29日	導水路裁判第1回公判
				2日	名古屋市「導水路公開討論会」開催
	9月			30日	総選挙で民主党圧勝
		25日	「愛知の会」とともに前原大臣あて要請	16日	前原氏国交大臣に就任
	10月				
		21日	「導水路中止から河口堰ゲート開放へ!」 市民学習会(今本)	9日	前原大臣「導水路凍結」を表明
11月			21日	導水路裁判第2回公判	
	27日	岐阜県交渉			
12月			9日	名古屋市長、導水路で尾張地域の市長と会談	
	23日	市民による「豊かな海づくり大会」準備会	3日	第1回「今後の治水のあり方に関する有識者会議」	
2010年 (H22)	1月	19日	第1回市民による「豊かな海づくり大会」準備会	14日	導水路裁判第3回公判
		26日	岐阜市長選挙候補者アンケート公表		
	2月	7日	河口堰周辺「稚アユ調査」		
		17日	「ゆたか」実行委岐阜県に要請行動		
	3月	9日	国交省(中部地整)要請行動	24日	導水路裁判第4回公判
	4月	25日	河口堰でヘドロを見る会		
	5月	7日	朝日新聞「意見広告:豊かな海」掲載	24日	岐阜市長「河口堰ゲート開放、有効」の記者会見
		12日	「ゆたか」岐阜県に要請行動		
	6月	3・4	市民による「豊かな海づくり大会」 シンポジウム(山内、向井)・アウトドア	2日	岐阜県庁において「導水路建設推進決起大会」開催 導水路裁判第5回公判
		26日	参議院選挙候補者アンケート公表	12・13	「第30回全国豊かな海づくり大会ぎふ長良川大会」開催
	7月	26日	「失われた生態系と回復にシナリオ」報告とシンポ (千藤、在間、山内)	11日	参議院選挙で民主党大敗
		27日	「ゆたか」中部地整、中部環境事務所に要請		
	8月			23日	導水路裁判第6回公判
	9月	17日	「ゆたか」中部地整に公開質問状提出	27日	有識者会議「中間とりまとめ」
				28日	国交省「ダム事業の検証に係る検討」を指示
	10月			20日	導水路裁判第7回公判
			11日~29日	「ゆたか」COP10ブースに出展	
	11月	19日	河口堰で失われた生態を見る会		
		3日	涸れた今川を見る会	21日	今川の「小さな命」救出作戦
	12月	24日	岐阜県交渉	25日	第1回内ヶ谷ダム建設関係地方公共団体検討の場
7・8		今本先生と長良川中・上流域を見る会	15日	導水路裁判第8回公判	

COP10 とは何であったのか

大沼 純一 (生物多様性条約市民ネット・生命流域部会)

この国の生物多様性国家戦略は3回も改定され、美しい文言が散りばめられているが、生物多様性を生態系ごと根こそぎ破壊するダム建設などの開発事業が止まったためではない。大型の箱モノ公共施設が林立する愛知県や名古屋市だが、自然系博物館は皆無に等しい。こんな国、こんな地域で何故 COP10 が開催されるのだろうか。そんな思いで冷やかに事態を静観するつもりであったが、見事に渦に巻き込まれてしまった。

条約の根幹には南北問題が

どうせ関わるのなら、条約会議がどういう展開になろうとも、この国やこの地域の環境政策が一步でも前進するように行動しようと決めた。まず開催国 NGO として結成された生物多様性条約 (CBD) 市民ネットの開催地作業部会として生命流域部会がスタートした。条約会議の最大の焦点である遺伝資源の利用と利益の衡平公正な配分 (ABS) などをめぐって先進国と途上国が対立したことからわかるように、この条約の根幹には南北問題がある。ひるがえって国内に目を転ずれば、流域単位で上下流間の不公平や不条理が存在する。すなわち、下流域都市圏が工業生産を基軸に繁栄し、上流域や沿岸域は下流域都市圏に労働力を奪われた。工業製品輸出のための WTO 自由貿易体制の下で大量輸入される安価な農林産物が上流域の農林業を追い詰めている。おいしくて安全な水を大量に享受して繁栄する下流域都市圏のために上流域や河口域にダムが建設され、産業廃棄物までもが持ち込まれる。まさに内なる南北問題である。

新しい視界が開ける可能性

「生命流域の再生を目指して」をテーマに、木曾川上流域で最も困窮している王滝村でシンポジウムを開催し、河村名古屋市長に水源基金や廃止が検討されている「名古屋市民おんたけ休暇村」の存続などの上流域支援策実現を迫った。COP10 本番のブース展示では、伊勢三河湾及びその集水域で活動する市民グループに共同展示と連日のワークショップやフォーラムの企画開催を呼び掛け、「市民による豊かな海づくり大会実行委員会」をはじめとする 20 団体の参加を得た。この活動は、市民へのアピールや流域内グループ間の相互理解で思った以上の成果を上げることが出来たし、生命流域というコンセプトのもとに個別の運動を位置づけなおしてみた時に、新しい視界が開ける可能性を感じたとの感想も聞かれた。

条約会議の中味については新聞などで報道されているように、ABS に関して名古屋議定書が、2020 年目標について愛知ターゲットが、遺伝子組み換え生物による汚染が起きた場合の責任と補償を定めるクアラルンプール・名古屋議定書が、それぞれ不十分ながらも成立した。このことについての CBD アライアンスや IIFB (生物多様性に関する国際先住民族フォーラム) の活躍ぶりは、日本の NGO の御用団体ぶりと対照的であり、この条約の可能性について大いに見直した。まだまだ力足りない条約であるが、先住民族や女性の役割に光があたっているのも良い。

自然史博物館に準ずる名古屋市生物多様性センター設置の提言については、来年度予算に準備室設置が計上される見通しが出てきた。これも COP10 の風を利用した活動であり、交換条件(?) として名古屋の 10 か所のため池の生物調査と市民参加による池干しを実施した。

市民にも一層のエンパワーが必要

条約会議の最中に、中国電力が生物多様性のホットスポットである上関の海を埋め立てを強行しようとした。国際 NGO による本会議場でのアピールにこのことへの抗議が盛り込まれた。最大の資金供与国でありながら、生物多様性を守る施策に欠けるこの国を評して、国際 NGO がつけたニックネームは「最大の矛盾」であった。この国の政府や御用 NGO の情けない現状を改めて確認するとともに、我々の一層のエンパワーの必要性を感じた 1 年間でもあった。

COP10に参加して

武藤 仁 (長良川市民学習会事務局)

長良川市民学習会が呼びかけた市民による「豊かな海づくり大会」実行委員会（以下「ゆたか」と略称）は、生態系を破壊している長良川河口堰のゲート開放をアピールするため、名古屋市で開かれた COP10（第10回生物多様性条約国会議）に参加しました。参加といっても、厳重な鉄の扉で閉ざされた中で国家の代表が出席する本会議場に参加できるわけではなく、会場に隣接して設けられた交流フェア会場のゾーンにブースの出展などをもってアピール行動することでした。また COP10 開催中のイベントとして「長良川河口堰で失われた生態を見る会」を長良川河口堰周辺で開催しました。

COP10会場で

「ゆたか」は、フェスティバルゾーン（熱田）とエキスポゾーン（白鳥）に設けられた CBD 市民ネットワークのブースに参加しパネルや河口堰で採取したヘドロなどを展示しました。熱田のブースに設けたパネルの前には「ゆたか」のメンバーが連日交替で「お店番」をこなし、

来場するみなさんとの対話を繰り返し続けました。もともと最後1週間だけの出展の予定であったものが、共同のブース出展の関係から開会より3週間の突然の長期出展となりスタッフ配置が心配さ

れました。しかし、「導水路はいらない！愛知の会」の皆さんを先頭に多くの方が自発的にスタッフとして名乗り出ることができ、大きなトラブルも無く終わることができました。

ブース内では、様々な出会いがありました。ワークショップも連日開催されました。韓国で進められている4大河川開発事業と戦う Korea Federation for Environmental Movements (KFEM) 韓国環境運動連合のワークショップでは、李明白政権が進める事業のやり方があまりにも強引なのを知り驚きました。KFEMのみなさんとも交流できました。数日後のワークショップでは、韓国ジュニア（幼稚園から小学校ぐらいの環境グループ）が、20人ぐらいでダム事業によったちの寸劇を演じ強烈なアピールをしました。「ゆたか」も独自企画とれた生態系と回復のシナリオ」を10月26日の午後開催しました。粕谷代表の講演やまだ河口堰が無いころの長良川の姿をとらえた「ダムのない川」（1975年NHK放映）のビデオ上映は好評でした。



韓国 KFEM のみなさんと記念写真
後列右から5人目は、建設中のダムの柱の上で41日間、抗議の座り込みをした豪傑には見えない愉快なパクさん。前列左から4人目は、辻淳夫さん



て殺される鳥
して「長良川河口堰：失われた生態系と回復のシナリオ」を10月26日の午後開催しました。粕谷代表の講演やまだ河口堰が無いころの長良川の姿をとらえた「ダムのない川」（1975年NHK放映）のビデオ上映は好評でした。

市民が参加した COP10

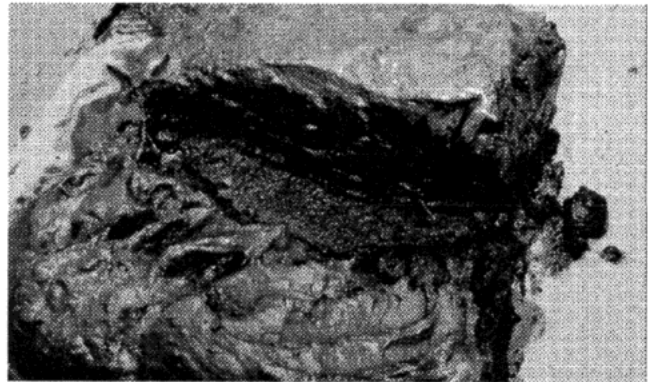
「ゆたか」の共同代表でもある藤前干潟を守る会の辻淳夫さんは、COP10の市民ネットのまとめ役の激務の中倒れて治療中でしたが、これらのワークショップにはいつもニコニコして車いすに乗って参加されました。辻さんの姿を見ると韓国のグループや鳥の衣装をつけた子どもたちは、熱烈な握手を求め、涙を流しひざまずく人もいました。私には辻さんが鳥たちの救世主に見えました。

フォーラムゾーン（名古屋学院大学）で10月25日（月）開催されたフォーラムでは私が「長良川河口堰：失われた生態系と回復のシナリオ」を報告しました。英語表記のパワポづくりは初体験で、大変勉強になりました。

また同会場で行われたポスターセッションには、「河口堰の生態破壊の実態」をアピールするタテ2.4mの超大型ポスターを出展しました。これを受けマスコミは「河口堰問題、世界に提起」（岐阜新聞）と報道しました。

長良川河口堰で失われた生態を見る会

10月19日（火）「長良川河口堰で失われた生態を見る会」を開催しアピールしました。マイクロバスと船を貸し切って行う取り組みで30名が参加しました。当日、集合場所の金山駅南には、まさか参加していただけるとは思わなかった人たちがみえました。それはCOP10のブースの河口堰パネルの前で「現場を見たいな。だけど参加費が・・・（日本の物価は高い!）」と断念していた韓国の3人の青年たち。でもホテルへ帰って話し合い参加を決めたそうです。青年3人は環境機関で働いている人、ジャーナリスト、研究者でした。事務局では通訳担当を配置して見学内容がよく理解していただけたと思います。「まさか参加してくれるとは!」というもう一人は、私が水源連絡会でお会いした、山口県の錦川のダムに反対するカヌー青年の吉村さんです。上関原発問題を世界に訴えるために名古屋に来るとは聞いていたけれど、まさかこのイベントにまで参加してくれるとは思わなかったので大喜びでした。COP10では上関原発に反対する運動のみなさんがとても活発な取り組みをされました。世界のNGOも注目し、「海の埋め立て」の問題が大きくクローズアップされました。



The Estuary Dam! Stolen Lives in Sludge

長良川河口堰—失われた生態系

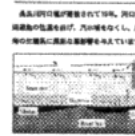
Eleven years have passed since the Nagara River Estuary Dam was constructed. The dam has distributed the passage of many species of migratory fish and destroyed the area of brackish water, with profound adverse effects on the ecosystem both of the river and surrounding sea and coastline.

The Mechanism of the Creation of Sludge

The lower estuarine layer becomes covered with a layer of surface river water overflowing from the estuary dam. This results in severe hypoxia in the bottom water layers. Moreover, the surface river water flows over the estuary without being mixed, creating anoxic overstratum. This creates a concentration, which transports massive amounts of organic matter to the

bottom of the riverbed.

Thus a "world of death" is created.

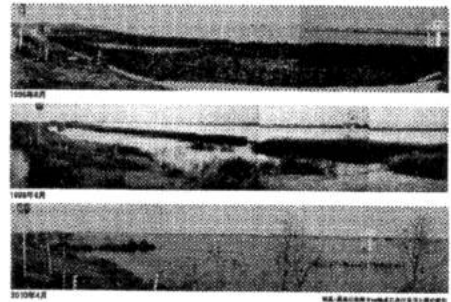


河口堰を築いた河口の塩分はヘド

ヘドは塩分のメカニズム

90% of the Reed-field Destroyed 広大なヨシ群落は90%喪失した!

At the mouth of Nagara River, there used to be a huge reed-field, which offered a necessary habitat for fish and other many other animals. After the dam gates were closed, the tidal range was lost and the water level was fixed with a small scale. Nearly 90% of the reed-field withered away after because of drying out or submergence.



Scenario of the Recovery of an Ecosystem

The main purpose of the Nagara River Estuary dam was to supply fresh water to the industrial area. Through 16 years have already passed, the water is used industrially. There is no prospect of its use in the future. A great part of the water is stored for long time, but never discharges, so that it never had. They have demanded that supplies be changed back to their former source. The necessary

to take in water from the Estuary Dam is gone because of the decrease in water demand. We say "Open the gates of the estuary dam and the area of brackish water will recover, a "world of death" in the sludge will disappear, and the reed-field will sprout again. Fish, shellfish, crabs, birds, and biodiversity will come back to Nagara River

生態系回復のシナリオ

河口の塩分はヘドヘドは塩分のメカニズム

河口堰を築いた河口の塩分はヘドヘドは塩分のメカニズム



Open the gates of the Nagara River Estuary Dam

市民による「豊かな海づくり大会」実行委員会



ポスターセッションに出展したポスター

寝た子「内ヶ谷治水ダム」が起きあがった？！

—市民の声を集中させよう—

徳山ダムの建設中止を求める会 事務局長 近藤ゆり子

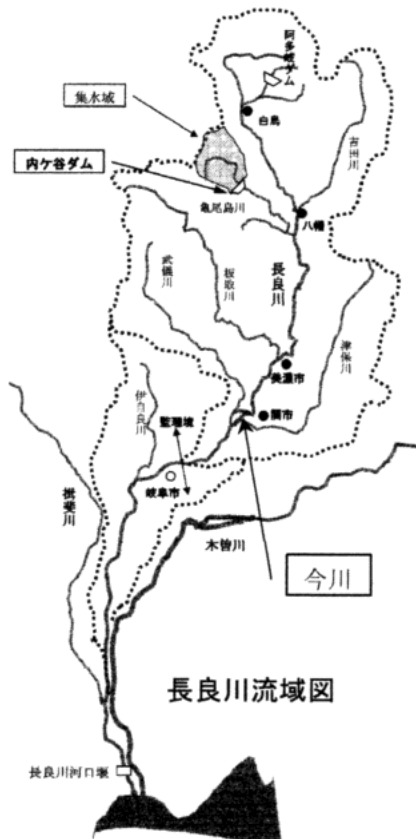
「コンクリートから人へ」と言った民主党が政権の座についた。「ダムに頼らない治水」と看板を掲げつつ、83事業について、これまでダム事業を進めてきた事業主体に「検討」を指示（要請）するという、ヘンテコリンな「ダム見直し」が始まった。

岐阜県知事は内ヶ谷ダムを最優先で検討すると言い、11月25日に「第1回 内ヶ谷ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場」なるものが開催されている。(2010.10.7 中日新聞→)

内ヶ谷ダム事業の概要

- 場所 郡上市大和町 木曾川水系(長良川支川) きびしまがわ 亀尾島川
- 目的 洪水調節、流水の正常な機能の維持
- 諸元 重力コンクリートダム
堤高=81.7m 堤長頂=270.0m 総貯水量=約1150万³
- 事業費 約260億円(H15年度事業評価監視委員会において再算定した全体事業費は約340億円)
- 費用対効果 B/C=1.1(H18年算定)

【問題1 説明がない】岐阜県民で、かつダムや河川に関心のある人でも、「内ヶ谷ダム」計画の存在、その位置を知る人は一体何人いるのだろうか？流域住民にも地元でも真っ当に説明されていない。地元でも、内ヶ谷ダム計画はすでに消えたと思っていた人も少なくない。



【問題2 情報がない】上記の見出しの報道があった時点で、内ヶ谷ダムの情報は岐阜県河川課HPにも僅かしか載っていません。知事が「最優先で検討」と言うからには、それなりの検討すべき情報（特にダムの「効果/ごりやく」）があると、思って河川課にヒアリングをかけたが、担当者が殆ど何も知らない。情報公開請求をかけたが、虫食いの情報しか出てこない。「ごりやく」らしきものが見えない。

【問題3 洪水対策として愚策】入手した情報の限りでは、「水害を防除する」とした地域に対する「効果(水位低減効果)」は微々たるものであり、千鳥橋より下流では「効果ゼロ」である。「涸れた今川」を流れ易くするなどの河道対策を行うほうが(防災面でも環境面でも)よほど有効な費用の使い方のように感じる。

【問題4 貴重な自然が壊される】”清流長良川”は、長良川河口堰の悪影響を直接被る中・下流部のみならず、源流部でも豊かな自然が壊されてきている。内ヶ谷はわずかに残された貴重な自然である。ダム工事で破壊してはならない。ダムの水底に沈めてはならない。事業者は、真っ当な環境調査も行っていない(環境アセス法適用外事業である)。

【問題5 お金がない！】河川課の治水関係予算は年間100億

010年(平成22年)10月7日(木曜日)

ダム事業見直し

代官が知事「来春めどに決定」

「内ヶ谷」最優先で検討

県議会は6日、本会議を開き、5氏が「見直し」を求め、国の補助を受けて建設し、国の見直し対象となっている補助ダム3事業について、古田知事は内ヶ谷ダム(郡上市)を最優先で検討し、来春をめどに、事業を継続するかどうかの対応策をまとめる考えを表明した。(足立氏の質問に答えた。)

(山本真嗣、中嶋裕、石井宏樹)

今、長良川は

円ラインが危うい状態である。もし内ヶ谷ダム本体工事着工となれば集中的に工事費を投入することになり、他の場所、他の河川では何もできずに放置することになるのは目に見えている。県民全体にとって危険である。

【問題6「検討の場」のあり方】「内ヶ谷ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場」は、推進団体に名を連ねる首長と、「ダムに頼る治水」を採用したい防災工学者・河川工学者で成り立っている。学者委員は「新たな計算方法」なるものを考案してまで、「ダム案こそ最良」という結論を導こうと画策している。「予断なく再評価する」場にはなっていない。

起債許可団体に転落し、財政逼迫にあえぐ岐阜県は「何が何でもダムを作る」と腹を括っているわけではない。世論の風向きを気にしながら動揺していることは、中央政府と同様だ。言い換えれば、この「見直し」なるものを監視し、このダムの是非、長良川というもののあり方に多くの人に関心が集まらなければ、「検討の場」は早々に「内ヶ谷ダム建設最優先」という結論を出してしまうであろう。結論を出すまでに2回の「皆様からの意見募集」を行うという。今、その1回目の意見募集中である。今回はバクっとした意見を募集している。「長良川水系にダムは要らない」「源流域を壊すダムを作るな」の声を是非多く届けて欲しいと思う。

岐阜県河川課HP <http://www.pref.gifu.lg.jp/kendo/michi-kawa-sabo/kasen/>

◆ 内ヶ谷ダム建設事業の検証に係るご意見の募集について

今回の意見募集の結果を踏まえて長良川中流域における洪水対策案を2から5案作成し、比較評価を行い、長良川中流域における最も望ましい洪水対策を策定してまいります。(略)

意見募集期間：平成22年11月26日(金)から平成22年12月24日(金) (略)

お問い合わせ：この意見募集についてのご質問等は、下記までお願いします。

岐阜県河川課河川整備担当 電話:058-272-8593 電子メール:c11652@pref.gifu.lg.jp

今年の「サツキマス産卵観察会」

長良川水系・水を守る会 事務局長 亀崎 敬介

春に伊勢湾から遡上したサツキマスは、夏の間を郡上の冷たい溪流で過ごし、10月下旬に産卵場所に集まり産卵します。産卵する大まかな場所は分かっているのですが、本当に産卵行動をしているのか毎年ドキドキしています。

産卵床は川底が白くなっているのですが、産卵が終わった所は砂利を卵にかぶせるので盛り上がっています。産卵が終わってない産卵床はサツキマスが一ヶ所集中で掘っているのどくぼんでいます。その違いを判断し水中ビデオカメラを設置する産卵床を決めます。そして水中ビデオカメラのケーブルを陸上の離れた所のテレビモニターにつなぎ、ようやく産卵観察会の準備終了です。

今年の産卵観察会には久しぶりにたくさんの方々に参加されて賑わいました。特に多くの子供達が参加したことはうれしいかぎりでした。

産卵行動の様子を質問に答えながら説明しましたが残念ながら予定の時刻がきてしまい帰られました。サツキマスの雌が目的の深さになるまで尾ビレを使い一ヶ所集中で掘り、時々尻びれで



今、長良川は

深さを確認することや、サツキマスの雄が他のアマゴの雄を追い払ったり、雌に産卵を促すためブルブルと体を震わせる行動を観察できたので、産卵行動の様子はわかって頂けたと思います。産卵したのは、観察会を終わろうとしたときでした。午後4時前、雨が強くなってきたのもうやめる事にして、私が川に降りかけた時歓声が聞こえました。

「産卵したー」という声。急いで戻ると、雌が埋め戻しているところでした。ビデオを再生してみると、産卵の瞬間、雄雌とも産卵床に体を沈め大きな口を開け（たぶん力を入れている）、雌の生んだ卵に雄が精子をかけ、白い煙が上がったようでした。この時、アマゴの雄も中に入って放精し自分の子孫を残していました。

産卵が終わると、雌は上流側を三日月型に尾びれで叩いて掘り卵に砂利をかけています。これは均等にかぶるようにする為です。このようにサツキマスは丁寧に一生懸命産卵しています。サツキマスがこれからずっと産卵していけるよう様々な努力を続けていかなければならないと観察会を行うたびに心に誓っています。

涸れた今川

NPO 法人ギンブナの会 事務局長 須田 道康

大日ヶ岳に源を発した長良川は、私たちの住む関市西部地区に至って川筋を複数に分けていました（P9の長良川流域図参照）。関市瀬尻地内を経た川は、私たちの住む関市西部地区の台地に入り、幾筋にも分かれ洪水の度に流路を変えていました。現在は長良川と今川の二つに分かれています。今川はその名の通り比較的新しくできた川です。長良川の本流と言われる保戸島の北部を流れる川筋は、水深も深く水流も複雑であり地元の人々は「裏の川」と呼んでいました。それに比べ今川は川幅も広く水深も浅く流れも穏やかで生活に密着した川でした。

地域には大きく分けて5つの村があり、その村史の一つ、小屋名史の中に以下の記述をみる事が出来ます。「魚梁と称した大昔、鎌倉時代からは小梁となり、江戸時代初期より小屋名と称せられるようになった。その歴史を総称するならば、それは正しく河川と治水の歴史であり河川文化の古里と言えよう。」各務用水の発起人、金竜小学校の校歌の作詞した篠田さん、2線式の渡し船の発明などは今川と本流に囲まれた保戸島の方々の功績です。

今川はその特徴により魚類などの生息・繁殖には大変好都合でした。この川で、後藤宮子先生の30年の「登り落ち漁」を使った魚類調査が行われました。

(<http://www.ginbuna.org/old/miyako/index.html> をご覧ください)。

その今川が今年の8月の大雨後、約3kmにわたり涸れてしまいました。私が市民による「豊かな海づくり大会」実行委員会の席でこの状況を報告すると、早速「涸れた今川を見る会」をやろう！ということになりました。私は、橋の橋脚部の水たまりに取り残された魚影を見つけ、県土木事務所に対応を要請しました。県は、私たちギンブナの会に協力を求め、「小さな命」救出作戦に取り組む運びとなりました。私たちは漁協、地元小学校などに参加を呼びかけ、わずか数日の宣伝で約100名が参加する大きな取り組みとなりました。参加した子どもたちは大喜び。川を体で身近に感じてくれたようです。ギンブナの会には地元中学校から「川の変化」について勉強したいとのメールも届いています。

県の発表では今川が枯れた理由はその上流部にある導流堤の倒壊としていますが、30年前には導流堤はありませんでした。導流堤が必要になった理由に遡り、考えてみたいと思っています。





校歌に歌われた長良川 ⑩

関市立金竜小学校校歌

作詞／篠田 桃枝

作曲／亀山 和成

一、東に緑こい 山なみを

西に水清き 長良川

光と風が ささやいた

ああ われら 金竜小学校

ゆたかな 心をはぐくんで

二、仲良くみんな 手をとりあつて

空から空へ どこまでも

みんながみんな たからかに

ああ われら金竜小学校

ゆたかな体を はぐくんで

金竜小学校は関市の西南部、小金田にあります。この地区は長良川と津保川に囲まれ、真ん中を長良川の分流である今川が流れています。今川は後藤正（故）・宮子夫妻が1967年から30年間にわたり「登り落ち漁」で長良川の魚を調査された川です。金竜小の生徒たちは長良川の美しさを守りたいと「クリーンウオーキング」などのボランティア活動をしています。今回の今川の「小さな命」救出の呼びかけにもたくさんかけつけてくれました。（P11参照）金竜小は1963年に小金田、千疋、保戸島の3校が統合され発足。新校舎完成の1975年にこの校歌も作られたとのこと。作詩の篠田さんは保戸島の方で昨年102歳で逝去されたそうです。

事務局より

1999年に名古屋市の藤前干潟が守られることになった時、「藤前干潟を守る会」の辻淳夫さんは「干潟の保全とこれから」という文を書かれ、その中で危機的な伊勢湾を救うために、山・川・海を繋ぐ流域全体の保全活動を呼びかけられました。それが今年私たちが取り組んだ「市民による豊かな海づくり大会」伊勢湾流域生命再生をめざした「COP10での生命多様性条約市民ネット」へとつながりました。

しかし長良川では河口堰、導水路に加えて上流に新たな内ヶ谷ダムを造る計画が進みそうな厳しい状況です。長良川ではまだまだ問題山積ですが、福岡高裁では有明海をよみがえらせる可能性のある「諫早干拓の潮受け堤防排水門の開門命令」の判決ができました。原告・漁業者側の勝訴は、私たちにも大きな励みになりました。新しい年もみなさまのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

今後の予定

市民学習会シンポジウム 「長良川に内ヶ谷ダムは必要か」

- 2011年2月5日(土)13:30~16:30
- ハートフルG:大会議室

基調報告：今本博健 京都大学名誉教授

パネルディスカッション：須田道康（ギンプナの会）
亀崎敬介（長良川水系・水を守る会）

- 2011年2月21日(月) 11:00

導水路はいらない！愛知の会

「住民訴訟・第9回口頭弁論」名古屋地裁

問い合わせ：052-811-8069

発行：長良川市民学習会

代表：粕谷志郎 <http://dousui.org/>

事務局：武藤 仁 / 090-1284-1298 〒500-8211 岐阜市日野東7-11-1

●私たちの運動はみなさんのカンパで成り立っています。賛同してくださる方はぜひカンパをお願いします。

郵便局口座番号：00840-3-158403 口座名称：長良川市民学習会